

紙版 **ハコブネ×ブックス** vol.15

<https://hakobune.wp-x.jp>

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・YA作品を未来に語り継ぐ web サイトです。



**ザ・ヘイト・ユー・ギヴ**  
あなたがくれた憎しみ

THE HATE U GIVE.

作者 アンジー・トーマス  
訳者 服部理佳  
出版社 岩崎書店  
発行 2018年3月  
ISBN 978-4265860432



武器を持たず、無抵抗だったにもかかわらず、呼び止められた警察官に射殺された黒人少年カリルの前で見ていた少女、スターは、カリルの幼なじみで親友であった。カリルがドラッグの売人であったことや、ギャングの一味に加わっていたことが取り沙汰され、撃たれても当然という世論も形成される一方で、これは人種差別の発露だ。この社会悪を糾弾する人々の抗議活動はヒートアップします。白人高校生たちのカリルのための抗議運動に欺瞞を感じていたスターでしたが、自分もまた正義を行使するため、無抵抗の少年を射殺した警察を真実を知る証人として告発します。自分に危険を引き寄せながらも、勇気を持って立ち上がり、カリルの声になろうとするスターが、怒りを力に変え、人々を目覚めさせていく熱い物語です。



**わたしは、わたし**  
Hush.

作者 ジャクリーン・ウッドソン  
訳者 さくまゆみこ  
出版社 鈴木出版  
発行 2010年7月  
ISBN 978-4790232339



十三歳の少女トスウィアが自分に新しい名前をつけなければならなくなったのは、素性を隠すためです。トスウィアの家族は、父親が裁判で公正な証言をするために、証人保護プログラムによってその身柄を守られていました。父親は地元デソバーの警察組織を敵に回し、無抵抗の黒人少年を恐怖にかられて射殺してしまつた警察官を犯罪者として告発する証人となります。警察官の恐怖の根底にあったのは黒人への差別意識です。正義感の強い警察官である父親は、仲間の罪を隠さず、いせす正義を行使しました。信念に基づいた行為であるとはいえ、家族に危害や、心に傷を負わせる選択肢を選んだ父親。しかし、それは本当の自分であるための決断だったのです。トスウィアが自分自身を模索する姿と、父親の苦渋の選択が二重写しとなり物語を彩ります。

十三歳の少女トスウィアが自分に新しい名前をつけなければならなくなったのは、素性を隠すためです。トスウィアの家族は、父親が裁判で公正な証言をするために、証人保護プログラムによってその身柄を守られていました。父親は地元デソバーの警察組織を敵に回し、無抵抗の黒人少年を恐怖にかられて射殺してしまつた警察官を犯罪者として告発する証人となります。警察官の恐怖の根底にあったのは黒人への差別意識です。正義感の強い警察官である父親は、仲間の罪を隠さず、いせす正義を行使しました。信念に基づいた行為であるとはいえ、家族に危害や、心に傷を負わせる選択肢を選んだ父親。しかし、それは本当の自分であるための決断だったのです。トスウィアが自分自身を模索する姿と、父親の苦渋の選択が二重写しとなり物語を彩ります。

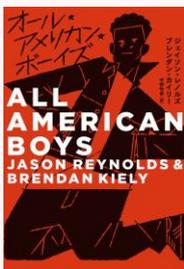
特集 **そこんとこ アラバマ!**



『アラバマ物語』はアメリカの正義と良心を描く、ピューリッツァ賞を受賞した世界的な名著です。一九三五年のアメリカ南部、アラバマ州。無実の罪で起訴され死刑台に送られようとする黒人青年を救うために戦う白人弁護士**正義と公正を貫くスピリット**は、現代のアメリカ児童文学にも頻りに引用され、脈々と受け継がれています。今、アメリカを揺るがすBLMを描く児童文学作品にもまた、このアメリカの正義と公正を求めるスピリットが息づいています。その時、親愛なる主人公である子どもたちの心はどう震えたのか。報道からは見えない世界を物語で体感してください。



**アラバマ物語**  
(ハーバー・リー)  
暮しの手帖社 1964年



**オール・アメリカン・ボーイズ**  
ALL AMERICAN BOYS.

作者 ジェイソン・レノルズ  
ブレندان・カイリー  
訳者 中野怜奈  
出版社 偕成社  
発行 2020年11月  
ISBN 978-4037269807



友人の家での週末のパーティーにでかける途中に立ち寄ったストアで、警察官に万引された疑われ、過度の暴行を受け大怪我をしたラシャド。高校では優等生であった黒人少年は、どんなに無実を訴えても聞き入れてもらえませんでした。この光景を近くで見ていた同じ高校に通う白人少年クインは、その警察官が友人の兄であったために、どちらに与して良いのか頭を悩ませます。ラシャドが暴行される動画がネットを通じて拡散され、その賛否が問われていきます。誰もが差別を憎み、公正さを求めながらも見解はすれ違っていく。警察への大規模な抗議活動が発展していく中で、高校生たちはどう考えて、自分の意思を行動に移していったのか。迫真の物語がラシャドとクイン、二人の少年の独白によって綴られていきます。



**キャラメル色のわたし**  
BLENDED.

作者 シャロン・M・ドレイパー  
訳者 横山和江  
出版社 鈴木出版  
発行 2020年8月  
ISBN 978-4790233695



両親に深く愛され、大切に育てられてきた十一歳の少女イザベラ。考え方が合わなくなり離婚した両親には共同親権が与えられたため、イザベラは一週間ずつ交互に両親の家で暮らし、黒人のパパと白人のママ、それぞれの世界を行き来しています。弁護士のパパは、慎重に身だしなみを整え、人にもどう見られるか気にします。レストランで働くママは、いつもラフな恰好でおおらかです。それは、その人種としてアメリカ社会で生きていく上で身につけてしまったもの。パパはキャラメル色の肌を受け継いでいるイザベラにも留意を促します。当初、差別に無自覚だったイザベラも、この社会と歴史の中に根深く残る差別や偏見を学んでいきます。そして物語は、彼女自身が警察官の差別意識によって、驚くべき事件の当事者になるという衝撃的な展開を迎えます。



『アラバマ物語』と同じ一九三〇年代の南部ミシシッピ州。白人から差別を受け、屈辱的な生活を余儀なくされている貧しい黒人一家の日々が、長女キャシイの目を通して語られます。誇りを失わず、人間らしく生きようとする姿や、今も続く差別との闘いの歴史と根幹を、是非の物語から感じつつも、私にしたいニューベリ賞受賞作です。



どどろく雷よ、私の叫びを聞け!  
(ミルドレッド・D・テラー)  
評論社 1981年

紙版「ハコブネ×ブックス」vol.15  
2020年12月1日発行 ●発行人 きむらともお

事務系会社員。趣味で児童文学紹介サイト **ハコブネ×ブックス** (非営利) を運営しています。日本児童文学者協会第6回児童文学評論新人賞佳作他、諸々を受賞。



© tomoostretch